

# 『南の宝箱 鹿児島』輸出拡大ビジョン～かごしまの農林水産物・食品を海外へ～の概要

## 趣旨

- 現行ビジョンの策定（平成30年3月）後、本県の農林水産物の輸出は拡大を続け、令和6年度の輸出実績は約471億円となり、過去最高を更新。
- 国内の人口減少に伴い食需要の減退が見込まれる中、本県の基幹産業である農林水産物を維持・発展させるためには、農林水産物・加工食品の輸出に取組み、海外から稼ぐ力を強化する必要がある。
- 輸出重点品目、輸出重点国・地域に加え、今後輸出拡大が期待される品目や国・地域を設定し、輸出目標額800億円の実現に向け、鹿児島県の強みを生かした戦略的取組を継続的に展開。
- 農林水産物・加工食品の輸出拡大により地域経済の好循環を高め、「攻め」の農林水産物の実現と地域の魅力・資源を生かした産業の振興を目指す。

## 現状・課題

### 現状

- 令和6年度（2024年）の県産農林水産物の輸出額は、過去最高の約471億円

〈内訳〉

▶ 牛肉等の畜産物	.....約176億円
▶ お茶等の農産物	.....約74億円
▶ 丸太等の林産物	.....約47億円
▶ 養殖ブリ等の水産物	.....約174億円

- 主な輸出相手国・地域は、畜産物と水産物が米国、農産物が米国やアジア諸国、林産物が中国

### 課題

- 更なる輸出拡大に向けては、
  - 1 海外のニーズに対応できる生産・輸出体制等の構築
  - 2 生産・輸送コストの低減
  - 3 高品質流通技術の開発・普及
  - 4 動植物検疫や認証基準への対応
  - 5 海外での認知度向上
  - 6 市場の不確実性に対応するための輸出先の多角化

の取組等が必要

## ビジョンの実現に向けた戦略的取組

輸出サプライチェーンを「つくる」、「あつめる・はこぶ」、「うる」の3つに柱立て。それぞれに「かう」側の視点を入れた取組を進める。

### つくる

- 輸出向け生産者の確保・育成による裾野の拡大
- スマート農業技術等による生産コストの低減
- 輸出先国のニーズに対応した生産・加工品の開発
- 国際水準の認証取得、施設整備 など

### あつめる・はこぶ

- 輸出集荷組織の育成
- 混載等による輸送コストの低減
- 県内港湾・空港の活用など、効率的な輸出物流の構築
- 鮮度保持技術の研究・開発の推進 など

### うる

- 商談会等への参加やバイヤー招へい等による商談機会の創出・販路拡大
- 海外での販売促進活動・本県の食文化の積極的な海外発信
- 輸出先の多角化推進
- インバウンド向けの県産品の魅力発信など

### 重点品目

牛肉、鶏肉、鶏卵、お茶、さつまいも、柑橘（きんかん、大将季等）、木材（丸太等）、水産物（養殖ブリ・カンパチ・鰹節等）、焼酎

### 今後輸出拡大が期待される品目

野菜類（キャベツ・大根等）、米粉、切り花等、その他酒類（ウイスキー、リキュール等）、菓子、調味料（黒酢・味噌・醤油等）

### 重点国・地域

米国、ASEAN諸国（シンガポール・タイ・マレーシア・ベトナム等）、台湾、中国、香港、EU等、韓国

### 今後輸出拡大が期待される国・地域

中東地域（UAE等）、インド

生産者団体等との情報共有、国際情勢や輸出実績を踏まえた検証等を実施

## 目指す姿

農林水産物・加工食品の輸出拡大による「攻め」の農林水産物を実現

令和12年度（2030年）

輸出重点国・地域に向け農林水産物・加工食品が安定的・持続的に輸出

今後輸出拡大が期待される国・地域に向けた積極的な販路開拓

海外への販路拡大により、農業生産・食品製造の基盤を維持・確保

輸出拡大により、農林漁業者の所得が向上し、後継者が確保され、稼ぐ力の向上による農林水産物の発展と産業の振興に貢献

輸出目標額は基準年（令和6年度）の約1.7倍、約800億円を実現（うち農林水産物約785億円）